

指定解除に関するシンポジウムの開催概要

平成 25 年 10 月 23 日

「オオタカ問題シンポジウム - オオタカをどうするか」

主催：日本自然保護協会、日本造園学会生態工学研究委員会

共催：明治大学専任教授連合会

後援：ヒトと動物の関係学会、日本野鳥の会、自然環境復元協会、環境省

場所：明治大学駿河台キャンパス

参加者：約 200 人

オオタカ指定解除に関する問題点等について幅広く議論する場として開催。

環境省からは「種の保存法と指定種について」として、種の保存法、レッドリスト、オオタカ指定解除の検討経過、今後の予定を説明。

ディスカッションでは、オオタカが指定されたことにより保全技術の向上に寄与し、保全されてきた経緯があり、解除後のフォローアップや配慮の必要性などの意見がだされた。

平成 26 年 1 月には、シンポジウムの講演内容を基にした講演者の原稿が、日本造園学会誌「ランドスケープ研究 VOL.77 NO.4」に掲載された。

平成 26 年 3 月 9 日

東京オオタカシンポジウム～首都圏のオオタカの実態を知る～

共催：都市鳥研究会、日本野鳥の会東京、立教大学理学部

後援：日本野鳥の会

首都圏各地のオオタカの実態を報告していただき、今後予定されているオオタカの指定解除の動きやパブリックコメントについて考えるための情報を明らかにしようというもの。（日本野鳥の会HPより）

パネルディスカッションでは、国内希少種に指定されていることによって生態系も含めて保護対策が進んできたこと、生息地の開発に関わる情報やカメラマン対策、開発事業者への情報提供の重要性等についての意見がだされた。

平成 26 年 10 月 4 日

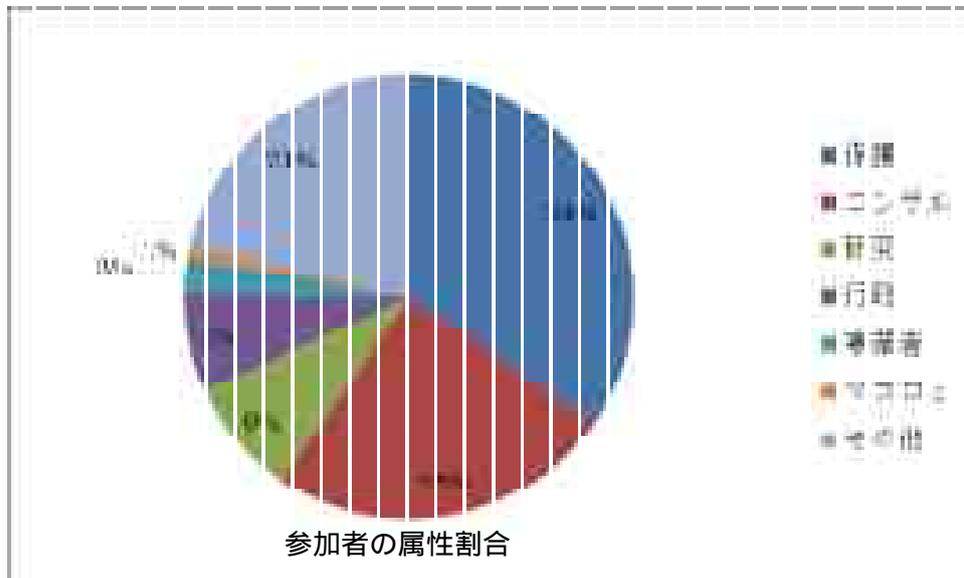
シンポジウム「オオタカ - 希少種解除の課題 - 」

主催：日本野鳥の会、日本オオタカネットワーク

共催：立教大学、環境省

場所：立教大学

参加者：235 人



解除検討にあたって環境省が行ったパブコメ等で見えてきた課題とそれに対する対応について、環境省及び研究者から話題提供し議論を行う場として開催。

里山を象徴する種として、里山環境を保全していくために、オオタカの指定を解除すべきではないということを強く主張する意見がほとんどを占めた。

【主な意見】

現在の生息数について

- ・大阪府では、どちらかという減少傾向であり、関東の状況をもって判断するのは時期尚早。全国的な状況を長期的に見るべき。
- ・推定値をレッドリストの評価に使うのはおかしい。
- ・狭山丘陵ではこの30年で見ると増えているが、2005年をピークにここ10年でオオタカの巣の数が半減した。違法捕獲の可能性がある。
- ・生息数は増えているかもしれないが、生息地の質が落ちている（不健全なところにもいる）。
- ・確かにオオタカは右肩上がりに増えている。

密猟や違法飼育について

- ・違法飼育は減っていない。むしろ関東（千葉、茨城、埼玉）、東海（愛知）などでは、20年前と比べると増えている気がする。
- ・輸入鳥への対処は、指定解除に関わらず必要。
- ・オオタカがレース鳩を襲うことがあり、トラップを設置して捕獲している事例がある。

- ・国が指定を解除すると、追隨して都道府県も希少種から外す懸念がある。
- ・鳥獣保護法の罰則強化が必要。

生息環境（里地里山）の保全について

- ・アセスでは、法に基づく指定種なので調査されてきた。解除後も調査されるのか疑問。
- ・アセスの調査対象と保全対象とは違う。法指定種以外は保全では無視される。
- ・オオタカは種の保存法を核に、アセス等他の条件がうまくリンクしてここまで良い状態になった。指定を外すなら他の担保を確保しなくては行けない。
- ・ガイドライン（猛禽類保護の進め方）では拘束力がない。種の保存法に指定されていることに意味がある。
- ・種指定されてアセスにかからない案件についても事業者が調査や配慮をするようになった。
- ・生態系の頂点にある種の保全を義務付ける別の法律を作る必要がある。
- ・オオタカは増えても守らなくてよいものではない。別の視点で保全する仕組みが欲しい。
- ・再び減少したら再指定ということだが、簡単にはいかないだろう。減った環境は元には戻らない。別の枠組みでカバーしてから解除すべき。



オオタカを どうするか

<主催>

公益財団法人日本自然保護協会
公益財団法人日本造園学会 生態工学研究委員会

<後援>(交手中)

ヒトと動物の関係学会
公益財団法人世界自然保護基金ジャパン (WWF ジャパン)
国際自然保護連合 日本委員会 (IUCN)
環境省

<CPD 登録申請中>

公益財団法人日本造園学会、日本緑化工学会
一般社団法人日本森林技術協会、環境アセスメント学会
公益財団法人土木学会

■開催にあたって

環境省は、種の保存法にもとづいて国内希少種に指定されているオオタカの指定解除の検討をはじめ、としています。これは、近年、個体数が十分回復したためという理由によるものです。しかし、オオタカの個体数が増加したとするならば、それは「猛禽類保護のすすめ方」などにもとづいて関係者がオオタカの保護に努めてきたことや、環境影響評価で生態系の上位種が大切であることの認識が増してきたことなどによるものであり、同時に保全対策技術が向上してきたことも大きな要因と考えられます。

それにともなってオオタカは自然保護のシンボルともされ、オオタカの棲む街づくりの動きもみられるようになってきました。これはオオタカを大事にしようとする動物観が育まれてきたことによるものでもあります。指定種の解除によって、このような動きが消滅して、個体数が再び減少することが危惧されます。さらに、指定種の指定や解除には科学的なデータが必要であることは言うまでもありません。

このようなことから、今般、この問題について幅広く議論する場が必要であると考えて、シンポジウムを開催することとしました。

■講演者と演題

- 中島 慶二 (環境省 自然環境局野生生物課長)
- 金井 裕 (公益財団法人日本野鳥の会 参与)
- 亀山 章 (ヒトと動物の関係学会 動物観研究会)
- 辻村 千尋 (公益財団法人日本自然保護協会)
- 春田 章博 (公益財団法人日本造園学会 生態工学研究委員会)
- 交渉中 (特定非営利活動法人 NPO さとやま)

- 種の保存法と指定種について
- オオタカの生態と生息状況
- オオタカ保護と動物観
- オオタカ保護制度のあり方
- オオタカの保全対策技術の進歩
- 地域環境の保全とオオタカ



2013年 **10月23日** 18:00 開始 21:00 終了

明治大学駿河台キャンパス

17:30 開場

入場無料

■申し込み

締切：10/16(水) ※先着 200 名
mail にて以下の内容をお知らせ下さい。定員に達しない場合は締め切り期限後も受け付けます。お問合せ下さい。

①お名前 (ふりがな), ②所属, ③E-mail

■申し込み先

明治大学 農学部

倉本 宣

[mail] kura@isc.meiji.ac.jp



JR 中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線/御茶ノ水駅 下車徒歩 3 分
東京メトロ千代田線/新御茶ノ水駅 下車徒歩 5 分
都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線/神保町駅 下車徒歩 5 分



シンポジウム

「オオタカ — 希少種解除の課題 —」

オオタカが過去2回のレッドリスト改訂で「準絶滅危惧」であったことを踏まえ、環境省はオオタカを種の保存法の「国内希少野生動植物種」の指定を解除するについて検討を開始しました。

しかし、本当に解除可能なほど十分な個体数があるのか、また解除された場合、開発などの際に里地・里山の上位種（指標種）としてオオタカがいることによって守られてきた自然環境の保全はどうなるのか、密猟や違法飼育が助長されることはないのか、等々多くの課題が浮き彫りになってきました。

そこで今回、研究者や行政から過去の調査および最新のアンケート結果に基づくオオタカの生息状況の変遷と現状、パブリックコメントから見えてきた課題などについて話題提供していただき、オオタカの希少種解除にあたっての課題と対応について議論するシンポジウムを開催します。

◆日時：10月4日（土） 13：00～17：00（受付開始12：30）

◆会場：立教大学（池袋キャンパス）11号館地下AB01教室

◆主催：日本野鳥の会・日本オオタカネットワーク

◆共催：環境省・立教大学

◆定員：500人

◆参加費：無料

参加の申し込みは、

日本野鳥の会自然保護室 hogo@wbsj.org または、fax 03-5436-2635 まで、お名前（読みがなも）、所属（あれば）をご記入ください。

当日受付もしますが、資料の準備上、できるだけ事前申し込みにご協力をお願い致します。

プログラム

開場・受付開始 12時30分

開会 13時

挨拶・趣旨説明 13時～13時15分

第1部 話題提供 13時15分～14時45分

- 1 オオタカの希少種解除の検討について
(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室長 安田直人)
- 2 オオタカの生息状況の変遷と現状
(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室長補佐 徳田裕之)
- 3 指定解除における課題
(日本野鳥の会 金井 裕)

第2部 .パネルディスカッションおよび討論 15時00分～17時

- 1 違法な捕獲・飼育の現況と対処
(日本野鳥の会自然保護室 葉山政治)
- 2 生息地保全とアセスメント
(自然保護協会保護研究部主任 辻村千尋・日本オオタカネットワーク 今森達也)
- 3 モニタリングと保全状況の評価システム
(日本オオタカネットワーク代表 遠藤孝一)
- 4 総合討論

閉会挨拶 17時

会場へのアクセス



この件に関するお問い合わせ先

公益財団法人日本野鳥の会 自然保護室 葉山 tel.03-5436-2633 メール hogo@wbsj.org

写真はすべて、日本オオタカネットワーク提供